

# 震災経験 生かし合おう

## 熊本大と東北大 調査、情報発信で連携

熊本地震をきっかけに、熊本大と東北大の大学院同士が連携し、震災に関する調査研究や情報発信に取り組むことになった。10月には熊本市で市民向け公開講座も共催する計画で、防災や救急医療などをテーマに両大学院の研究者や学生らが災害対応の事例や調査結果を発表する。

熊本大側は、医学・薬学専攻の院生を対象に国際的に活躍できる人材を育成する「H I G Oプログラム」から参加。東北大は、大震災から人命や社会、産業を守るシステムを学ぶ「グローバル安全学トップリーダー育成プログラム」のメンバー。期間は設けず、「息の長い交流につなげたい」

(熊本大発生医学研究所) という。

東北大は東日本大震災を機に「災害科学国際研究所」を設立して実践的な防災・減災システムの研究を進めており、チームが熊本地震の調査に入っている。「H I G Oプログラム」の指導に当たる熊本大発生医学研の小椋光教授は「震災でつながった東北と熊本の知識を生かし合うことで、地域の防災や復興に貢献できれば」と話している。

(毛利聖一)